

令和6年度

時間外電話・LINE相談
「育児もしもしキャッチ、育児つながるLINE」
—相談情報分析結果報告—

あいち小児保健医療総合センター

あいち小児保健医療総合センター保健センターでは、平成 13 年 11 月のオープン時より、県民の育児不安を軽減し、健やかな子育てを支援することを目的に、地域の保健機関が閉庁する午後 5 時から 9 時までの間、専門相談員が育児や母子の健康についての相談に対応する時間外電話相談「育児もしもしキャッチ」を開設している。

また、現代のニーズに合わせた保護者への子育て支援の拡充を図るため、令和 5 年 5 月より新たに LINE を用いた相談「育児つながる LINE」を開設した。

育児もしもしキャッチ開設当初の体制は、月曜日から金曜日まで開設していたが、当センターの外来診療日の変更に伴い、平成 15 年 5 月より火曜日から土曜日に相談日を変更し、電話相談員の体制は 1 日当たり相談員 3 人で実施してきた。しかし、令和 2 年度から新型コロナウイルス感染症対策のため、週 3 日 2 人体制により実施している。

相談内容	母子健康手帳を活用する年齢層の保護者を対象に、育児や健康についての相談
開設日時	火曜日から木曜日 午後 5 時から午後 9 時まで（4 時間） （外来休診日を除く）
相談担当者	保健師、助産師、看護師、保育士の専門相談員 電話相談 2 名、LINE 相談 2 名 合計 4 名で対応
相談体制	当センターの保健師 1 名が相談終了まで勤務する体制をとり、困難な相談への助言、連携の必要なケースを地域に繋ぐ役割等、相談員をバックアップしている。
相談記録の記載方法	相談は原則匿名としているが、相談分析のため、相談者の居住地域、相談経路を聞いている。予め設定されている「相談内容分類コード」に従い内容の分類を行っている。
相談の周知方法	各市町村での母子健康手帳交付、乳幼児健康診査や周産期の医療機関、子育て支援拠点等での案内カードの配布。また、当センターのホームページにも案内を掲載している。

【令和 6 年度の事業内容】

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までに寄せられた相談情報を地域別利用数や相談者、相談時間、相談内容等に注目して分析した。

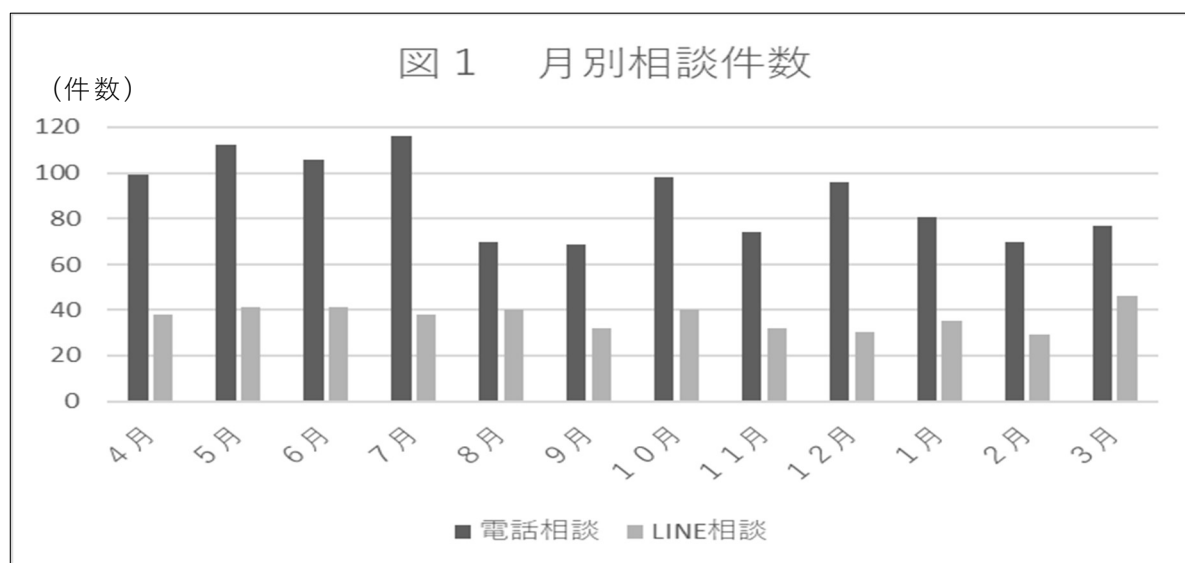
1 相談対応件数について（図 1）

（1）電話相談

相談対応件数は 1,068 件（R5 年度 1,182 件）であった。経年で見ると、開設後の平成 14 年度以降の相談対応件数は、平成 18 年度まで増加し、その後は平準状態となり近年は減少の傾向にある。令和 2 年度からは新型コロナウイルス感染症の影響により相談の中止や相談開設日、相談員の縮小を行ったため、大きく件数は減少している。令和 6 年度の月別相談件数では、年度替わりの 4 月、5 月と学童期の夏休みにあたる 7 月の相談件数が多かった。

（2）LINE 相談

相談対応件数は 442 件（R5 年度 270 件）であった。令和 5 年度から開設した LINE 相談も市町村母子保健機関、周産期医療機関、子育て支援拠点等での周知がされ、子育て世代に対する認知度向上に伴い、相談件数は増加している。月別の相談件数に大きな差は見られなかった。



2 相談者の居住地域について

(1) 電話相談

居住地が把握できた 833 件を分析した。市町村別では、名古屋市 268 件、岡崎市 65 件、蟹江町 45 件の順に多かった。

(2) LINE 相談

居住地が把握できた 442 件を分析した。市町村別では、名古屋市 117 件、東海市 41 件、常滑市 33 件の順に多かった。相談件数が多かった市町村では、同じ相談者からの複数回の相談が多い傾向にあった。

3 相談所要時間・曜日について

(1) 所要時間について

電話相談では、「30 分以内」の相談が 934 件 (87.5%)、うち「10 分以内」が 418 件 (39.1%) と比較的短時間で相談が完了することが多かったに対して、LINE 相談では、相談者が家事や育児で返信に時間を要することも多く、「30 分以内」の相談は 118 件 (26.7%) と少なく、一方「30 分以上」の相談が 324 件 (70.3%) と 1 件当たりの相談所要時間が長かった。

(2) 曜日について

電話相談、LINE 相談どちらも木曜日の相談が最も多く、電話相談 409 件 (38.3%)、LINE 相談 162 件 (36.7%) であった。かかりつけクリニックの休診日や月曜日からの育児の疲労感の蓄積が影響していることも考えられる。

4 紹介経路について

(1) 電話相談

初回相談は 327 件 (34.2%) であった。初回相談の紹介経路は、市町村 (保健福祉)、母子健康手帳交付からの紹介が多く、合わせると 169 件 (17.7%) であった。「利用経験あり」は 630 件 (65.8%) であり、複数回の相談も多かった。

(2) LINE 相談

初回相談は 232 件 (52.5%) であった。初回相談の紹介経路は「市町村」からの紹介が最も多く 139 件 (31.4%)、次いで「ホームページ」からの情報が 45 件 (10.2%) であった。「その他」では、SNS で LINE 相談を知った県外からの相談者も増えてきて

いる。「利用経験あり」は 210 件（47.5％）であり、複数回の相談もあった。

5 相談者について

（１）電話相談

相談者（電話をかけてきた人）の続柄を相談対象者との関係から本人、母、父、配偶者、祖父母等、兄弟、専門職等、その他と分類している。母からの相談が 882 件（82.6％）と最も多かった。

年齢区分では、30 歳代が最も多く 462 件（43.3％）、次いで 40 歳代が 186 件（17.4％）、20 歳代が 88 件（8.2％）であった。

（２）LINE 相談

LINE 相談でも母からの相談が最も多く、428 件（96.8％）であった。

年齢区分では、電話相談同様 30 歳代が最も多く 325 件（73.5％）、20 歳代が 82 件（18.6％）であった。

6 相談対象者について（図 2）

（１）電話相談

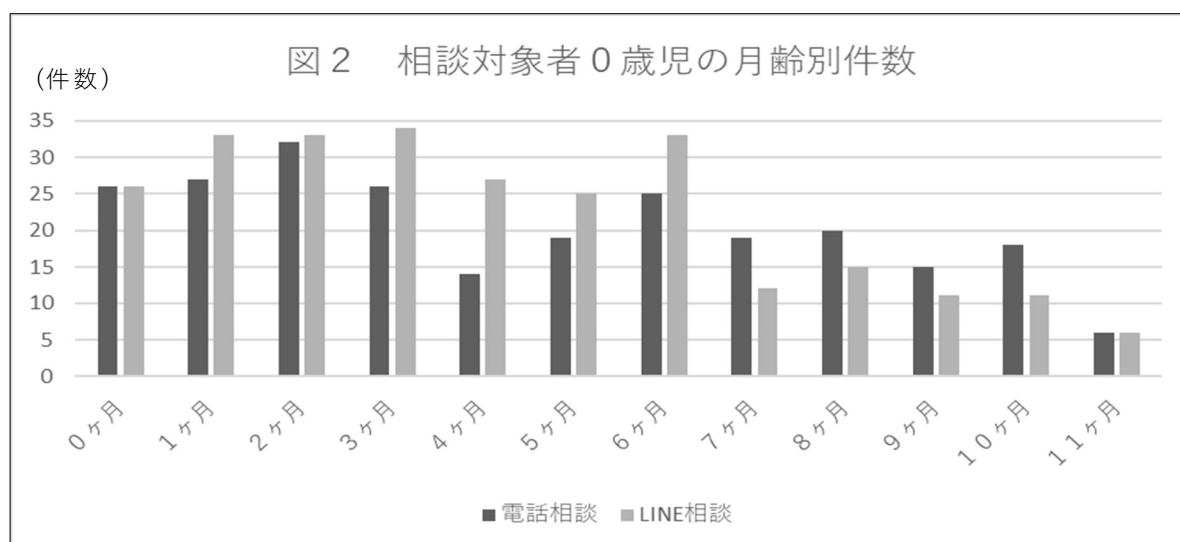
相談対象者は「こども」が 910 件（85.2％）であった。「本人」（母自身のことに関する相談など）は 157 件（14.7％）であった。「本人」の割合は年々増加の傾向が見られた。

相談件数の多かった「こども」の年齢は 0 歳が 247 件（27.1％）、1 歳が 98 件（10.8％）、4 歳が 94 件（10.3％）の順に多かった。就学以上の相談 219 件（24.1％）のうち 158 件（72.1％）が複数回の相談であった。

（２）LINE 相談

相談対象者は「こども」が 433 件（98.0％）と相談の大半を占めていた。電話相談と比べ「本人」からの相談は 7 件（1.6％）と少なかった。

相談対象者を月齢別にみると、0 歳が 266 件（61.4％）、1 歳が 69 件（15.9％）の順に多かった。新生児・乳児期の月齢内訳は、生後 3 か月が 34 件（12.8％）、生後 1 か月、2 ヶ月がそれぞれ 33 件（12.4％）、0 ヶ月が 26 件（9.8％）と多くの市町村で実施されている 3、4 ヶ月児健康診査前の相談が多かった。



7 相談内容について（図 3）

（1）電話相談

電話相談の内容は、「育児相談」が 788 件（73.8%）と大半を占め、次いで「事故相談」が 97 件（9.1%）であった。相談内容の内訳は例年と同様であった。

「育児相談」788 件の内訳は「こどもの病気と手当て」が 293 件（37.2%）、次いで「家族・人間関係」が 188 件（23.9%）、「日常生活」が 89 件（11.3%）の順に多かった。

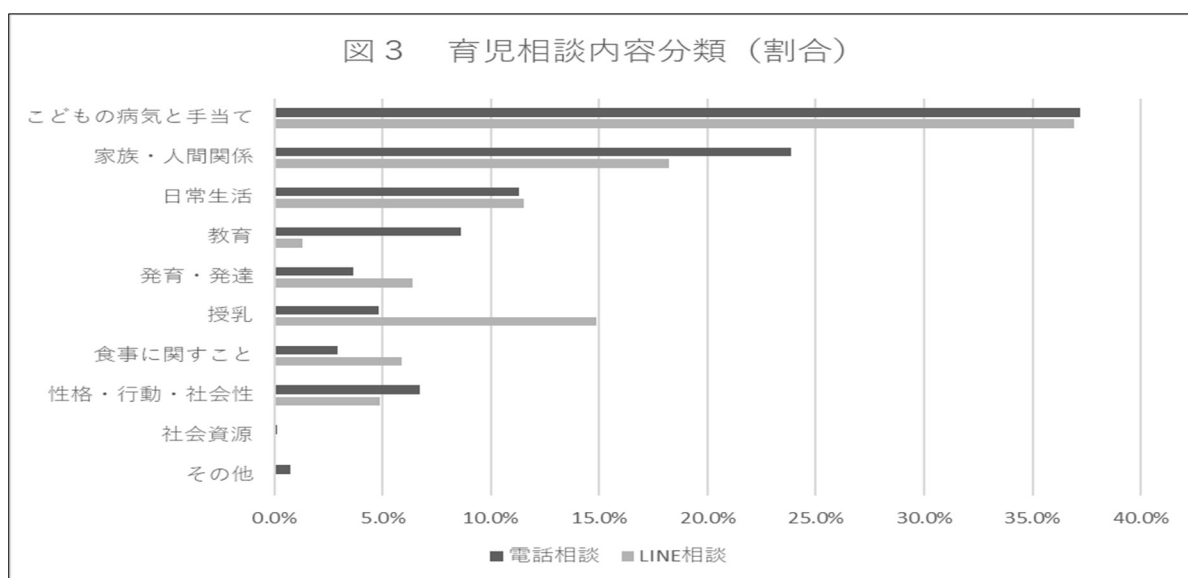
（2）LINE 相談

LINE 相談も「育児相談」が最も多く 390 件（88.2%）であった。

「育児相談」390 件の内訳は「こどもの病気と手当て」が 144 件（36.9%）、次いで、「家族・人間関係」が 71 件（18.2%）、「授乳」が 58 件（14.9%）の順に多かった。

電話相談と LINE 相談を比較すると「こどもの病気と手当て」に関する相談割合に差はみられなかった。その一方で LINE 相談では、「授乳」に関する相談、電話相談では「教育」に関する相談が多かった。

また、LINE 相談では画像や動画を添付した相談が 61 件（13.8%）あった。画像の添付があった相談は、発赤、発疹等の皮膚に関する相談と便の性状に関する相談が多かった。動画での相談は、呼吸状態の相談や発声についての相談があった。



8 相談例について

（1）「こどもの病気と手当て」について

こどもの症状、病状への対応についてのアドバイス、受診の要否についての相談が多く、熱や鼻汁等のかぜ症状、下痢、嘔吐等の消化器症状、発疹等の皮膚症状の相談があった。また、流行性の感染症に対するケアや対策についての相談もあった。LINE 相談では、発疹等の皮膚症状、便の性状についての相談の際に画像データを添付して症状・状態を画像で確認しながら相談に応じた。

<電話>

- ・ 8歳児。先週より夕方から発熱し咳も続いている。小児科受診し抗生剤と解熱剤の処方を受け、内服もしているが特に診断名を言われていない。咳が出ると苦しそうで親としては不安でしかたない。
- ・ 2か月児。火曜日から下痢症状がある。先週に父親がコロナに罹患し完治した。それが感染したからか。児は他に症状なく元気だが受診したほうがよいか。

- ・ 5歳児。昨日から発熱あり受診。頓服を2回飲ませた。本日は微熱だったが、先ほどから全身に発疹出現し掻痒感がある。熱も39℃に上がってきた。受診はすべきか。
- ・ 6か月児。今朝初めて卵を食べさせた。16時半頃から目の上が赤くなり始めて顔の周りにもブツブツ出てきている。少しずつ増悪傾向あり。呼吸苦はなく、元気もある。どうしたらよいか。
- ・ 7か月児。嘔吐3回と下痢をしていてぐったりしている。水分が摂れず。かかりつけ医は本日休診日、救急車を呼んだ方がよいか。
- ・ 4歳児。発熱あり、受診して解熱剤はもらっていて飲ませると下がるが、また上がることを繰り返している。昨日はあまり食事を食べていない。水分は摂らせるようにしている。昼間も夜も寝ている。大きい病院を受診した方がよいか。
- ・ 1歳児。保育園に通園しているが風邪を引いたらなかなか完治せず、登園すると熱が出て帰宅すれば下がる状態。こんな時はまとめて何日か休園した方がよいのか。1か月近くも通院して薬を内服しているがこんなに長く内服を続けても大丈夫なのか。
- ・ 3か月児。日中は機嫌良くいつもと変わりはない。ミルク与えたら飲みが悪く、検温したら39.8℃の熱があった。表情はよいが受診した方がよいか。実家の母が月曜日にコロナに罹患、先週末は一緒に過ごしたのでもしかすると感染しているかもしれない。

<LINE>

- ・ 1か月健診で乳児湿疹を指摘されてスキンケアの指導があった。その後、湿疹の範囲が広がったがケアを継続して健診時程度には戻った。軽快までは至らないがこのままケア継続で様子を見てよいのか。
- ・ 生後18日。臍部が赤くなっているが受診をした方がよいのか。黄色い滲出液も出ている。(画像添付あり)
- ・ 5か月児。今月に入り噴水様の大量の嘔吐が3回あった。今回は排気させた時に自分の指を口に入れてえずいた。最近、ミルクの種類と乳首のサイズを変更したことが影響しているか。
- ・ 3か月児。昨日児の足の皰の位置が変わった。股関節脱臼の可能性はあるのか。小児科受診をした方がよいか。
- ・ 新生児。2日半排便がない、何日くらい様子を見て良いのか。綿棒刺激は1日何回してよいか。
- ・ 5か月児。入浴中に右耳に水が入ってしまった。どうしたらよいか。

受診するべきかを問う相談や、自宅でのケア方法についての相談が多かった。また、「かかりつけ医を受診し、内服薬や坐薬をもらっているが不安。」といった適切な行動がとれているが不安が軽減されないという電話も少なくない。保護者が現状をどう捉えているかをよく聴き、今できていることを認めることも重要であると考え。家庭看護力の低下が指摘されている中、発熱の生理的意味から、「様子をみる」とはどういうことか、受診に切り替えるタイミングまでを十分に説明する等、保護者をエンパワメントできる相談となるよう心掛けている。

(2)「家族・人間関係」について

「育児不安」が158件で最も多く、次いで「家族内の人間関係」73件、「近所との付き合い方」17件であった。

<電話>

- ・ 3歳児。ここ1ヵ月仕事で悩みがあり、疲れてしまっていて子どもとちゃんと向き合えていなかった。今まで実家で預かって貰っていて、祖父母のことは児も大好き。今も祖父母の家へ行ってしまう。母より祖父母のことを良いと思っているのか寂しい。
- ・ 1歳児。昨日から児が発熱。育児がこんなに大変だとは思っていなかった。高齢出産で周りからは色々言われてメンタル面で落ち込むことも多い。ママ友は皆若く、合わせるのも大変。やっと生まれた子どもなので大切に育てたいと思っているが、産まれてみると現実は思っていたのと違って大変。
- ・ 5歳児。保護者自身が不安障害あり。子どもに関して過敏になる。子どもも発達障害があり、自分のことも大変なのに子どものことになると更に迷路に入ってしまう。こんな話を聞いてくれる人はなく、こちらに電話した。
- ・ 夫の育児・家事の協力なく日常的に夫に気を遣って生活している。圧が強く夫の言動に振り回される毎日。どう生活していったらよいか。
- ・ 2歳児と0歳の双子。上の2歳児が甘えたり生意気だったりと手を焼く。祖父母は車で1時間半のところに住んでいるが面倒を見てもらったら見てもらったで、気を遣い疲れる。夫も面倒を見てくれるが、疲れて一杯一杯。他者と比較して母として不甲斐無さを感じている。
- ・ 2歳児と0歳児。夫の仕事が忙しいのでほぼ一人で育児をしている。友達や近所の旦那さんは育休を取ったりしている人も多くてうらやましいが、夫は営業職なので無理。育児書では「叱ってはダメ」と書いてあることが多く、叱らないで我慢しているがすごくストレスが溜まって辛いがどうしたらよいか。

<LINE>

- ・ 5歳児と2か月児。2か月児が昼間にあまり寝てくれず家事が出来ない。平日昼間は祖父母が手伝いに来てくれるのでなんとかやれているが、二人の育児に自信が持てない。
- ・ 9か月児。夕方になると母自身が気分的に悲しくなる。こんな母に育てられて児に影響はないか。昨日、保育園の内定通知あり。仕事も決まりそう。子どもと離れる時間がないと母親自身も辛い、寂しい思いさせることも一方では申し訳ない気持ちで苦しい。
- ・ 2か月児。里帰りから自宅に帰った後の育児に不安がある。夫は育児参加したいようだが扱いが不安で見えていられない。夫に専門家の話を聞いて欲しい。
- ・ 2歳児。夫の育児協力がなく、育児に疲れた。夫は話をするとイライラしているし威圧的な態度なので話ができない。自分がもう限界にきていて辛い。

「育児不安」では、保護者自身の持病や仕事との両立、家庭内での孤立した育児の負担感からの不安が聞かれた。また、漠然とした不安を訴える母親も多く、とにかく「話を聞いて欲しい」と繰り返し相談する母も見られた。

「自分は頑張っているが夫が育児に非協力的で疲れた」という相談も多かった。これら「家族・人間関係」の相談では、186件(71.8%)が「利用経験あり」であり、繰り返し相談する利用者が多いことがわかる。また、相談の開設当初、相談内容の約5%弱の割合であったのに対し、新型コロナウイルス感染症を契機に相談割合は増加傾向にある。

(3) 「事故相談」について (図 4)

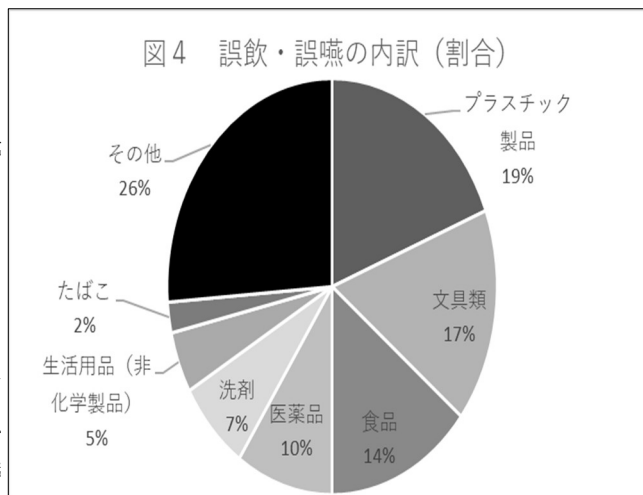
事故相談は、電話相談 97 件 (9.1%)、LINE 相談 30 件 (6.8%) であった。

事故相談は緊急性を伴うことも多く、電話での相談件数が多い傾向であった。LINE 相談では、「頭を打った、頭部打撲」や「誤飲」に関する相談が多く、早急な受診勧奨をした相談は 1 件あった。事故相談の全相談内容を分析すると「誤飲・誤嚥」が 42 件 (33.1%) と最も多く、次いで「転落」が 34 件 (26.8%) であった。

「誤飲・誤嚥」について、誤飲をしてしまった児の年齢は大半が 1 歳前後の年齢であった。

相談があった誤飲・誤嚥物は、包装紙のプラスチック製品の誤飲が最も多く次いで文具類の相談が多かった。

医薬品の誤飲では、児に対して処方された塗り薬を誤飲してしまったという相談や保護者の持病の薬を誤飲してしまった相談があった。たばこの誤飲含め、誤飲物や量、誤飲後の症状を確認し、受診勧奨や中毒 110 番等の相談機関を紹介する等の助言を行った。



事故相談では、事故の状況を的確に捉えて、冷静な対応を促すだけでなく、保護者の事故に対する焦りや自責の気持ちに寄り添って助言を行った。

<電話>

- ・ 8 か月児。絆創膏を誤飲したかもしれない。咽せるような咳をしていてすぐに泣き止んだがなくなっている。どうしたらよいか。
- ・ 2 歳児。手指消毒のアルコールで消毒した後、児が指しゃぶりをしているが大丈夫か、身体に影響はないか。
- ・ 1 歳 5 か月児。母の頸椎ヘルニアでもらった薬 (メチコバル) をなめてしまった。すぐに吐き出させて口は漱がせた。児に特に変化はないが、受診したほうがよいか。
- ・ 1 歳 6 か月児。自宅で飼っている犬の糞を食べてしまった。食べた量はわからない。近医電話したが診てもらえないと言われた。どうしたらよいか。

(4) 「日常生活」について

こどもの「睡眠」・「泣き」についての相談では、泣き止まない、寝ないことへの対処方法や解決方法を求める相談が多く、保護者の育児に対する疲労感もうかがえる。

<電話・LINE>

- ・ 1 か月児。昼夜逆転していて困っている。抱いていないと泣く。10~15 分程度は放っておこうとも思うが結局かわいそうで抱いてしまう。
- ・ 2 か月児。オムツ替えや授乳をしても泣き叫ぶ、反り返って泣く。どのように対処したらいいのか。
- ・ 1 か月児。授乳後手足をばたつかせて泣く。泣きが治まり布団に置くと再度暴れて泣く。寝かしつけに 1~1.5 時間かかる。まとまって 2 時間も寝てくれない。
- ・ 1 歳 5 か月児。20 時就寝~6 時半起床を習慣化させたいが 2 時以降に数回覚醒してしまい親の方が睡眠不足になっている。

(5)「授乳」について

「授乳」に関する相談は、LINE での相談割合が高く、授乳間隔やミルクの量、授乳後の嘔吐についての相談が多かった。

<LINE>

- ・ 3 か月児。いつもと授乳のタイミングがずれてしまい間隔が空いてしまった場合はどうしたらよいか。
- ・ 生後 7 日。産院では 50ml／回飲んでしたが、今日は 40ml しか飲まず心配。
- ・ 3 か月児。完全ミルク栄養だがここ 2 週間ほど飲みが悪い。種類や乳首・哺乳瓶を変えてみたが効果なし。暑くなってきたので脱水も心配。
- ・ 2 か月児。混合栄養ですすめていたが、最近母乳後のミルクを飲まなくなった。昨夜は 18 時頃から朝 6 時まで寝ていて授乳間隔が空いてしまった。与え方を教えてほしい。
- ・ 2 か月児。母乳栄養で日中は 1～3 時間間隔、夜はよく寝てくれるので 7 時間空いてしまうことある。起こして授乳した方がよいのか。
- ・ 5 か月児、母乳授乳後に勢いよく嘔吐した。感冒症状はないが受診をした方がよいか。
- ・ 生後 2 週間。出生後は昼間のミルクを与えていた。2 週間健診で体重増加も順調で昼間はミルクをやめることにした。そしたら、こどもがぐずるようになった。昼間のミルクを再開したほうがよいか。

(6)「教育」について

相談内容は、こどもの発達特性から保育園・幼稚園での生活に関する不安や小学校での宿題等の学習面の相談や不登校に関する相談が多かった。

「教育」に関する相談のうち 71%が「利用経験あり」であり、繰り返し相談する利用者が多いことがわかる。

<電話>

- ・ 3 歳児。最近、保育園から園生活について、落ち着きがないと言われた。元々、ジッとしていることが苦手な子で 1 歳半健診でも指摘されていた。
- ・ 小学高学年。宿題が増えて、こども自身が毎日怒鳴りちらしたり物に当たったりしてイライラしている。これまでは集中してできていたのだが。下校後すぐに遊びに出て戻ってきて 18 時ころから宿題開始する。当たられるこちらは堪ったものではない、どう対応したらよいか。担任は忙しく個別に相談はあまりしたくない。
- ・ 小学校 1 年生。国語・算数の授業についていけないと担任から指摘あり。個別クラスを勧められた。集中力が今は 30 分程度しか続かず授業に集中できない。体育・音楽・道徳は良い。塾に行かせたり、自宅ではみんなについて行けるよう母も祖父母も頑張っているが、クラスを変えた方がよいのか悩む。

(7)「虐待・虐待予防」について

「虐待・虐待予防」の相談件数は 6 件であった。経年的な相談件数に大きな増減はなかった。相談の多くは、母親の感情(怒り)のコントロールについての相談であり、アンガーマネジメント等の助言を行った。また、必要なケースについては市町村保健センター、こども家庭センターへの情報提供も行った。

<電話・LINE>

- ・ 4 歳児。子どもが言うことをきかないと手が出てしまい、ビンタをしてしまう。

自分を止められない。精神科で薬ももらっているが処方のみで話を聞いてくれない。イライラの原因は職場での人間関係だと思う。

- ・ 3歳児。最近、お漏らしが多く布団でも何回も失敗あり。痩せているのでオムツからも漏れてしまう。本日は怒れてしまって顔を引っぱたいてしまった。本児には小さい頃からイライラすることが多かった。
- ・ 1歳3か月児。相談者自身が被虐待児。子どもに対して自分がされたように手を出してしまわないか不安。

原則、匿名相談ではあるが、気になるケースについては、相談対象が明確でなくともできる限りの情報を用いて地域連携を行っている。

9 相談結果について

電話相談・LINE相談ともに原則匿名で1回の相談での終了が前提となっているため、利用経験がある場合も継続支援とはしておらず、1回で終了としている。

10 まとめ

電話相談では、令和2年度から新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い「子どもの病気・手当」の相談が増加したが、5類感染症に移行後は相談件数も減少した。しかし、「こどもの病気・手当」は電話相談件数の約3割を占めており、受診の必要性の相談含め、こどもの健康危機に対する相談先としての需要は示唆される。

その一方で「話を聞いて欲しい。」と共感や傾聴を求められる継続相談も多く、『育児もしもしキャッチ』は育児や人間関係で困っている親の不安や心配、うまくいかない苛立ちを受け止める窓口としても大きな役割を担っている。

LINE相談では、新生児期から生後3ヶ月の相談件数が多く、産科退院直後から市町村の多くで実施されている3,4か月児健康診査までの育児相談の需要が再確認された。相談者の年齢も電話相談と比較し、20歳代の若年層が多い傾向であった。

また、LINEの特性上、画像や動画を用いた相談も可能なため、言語化が難しい症状や性状についての相談では、状況を正確に確認することができ、適切な助言を行うことが可能であった。

電話相談、LINE相談ともに相談者や相談内容で適性が異なるため、相談者が適当な相談方法を選択できる双方の相談体制の有益性を感じる。

本事業は平成13年11月のセンター開設と同時に開始され、関係機関からも高い認知度と期待を受けて運営されてきた。社会の育児問題が反映されており、ニーズ把握に役立てることができる貴重な機会でもある。今後も県内の小児保健の中核的支援機能を有する当センターの保健事業のひとつとして、相談体制を継続するとともに、相談結果を分析し、地域の母子保健関係機関へ還元していく。

表1 市町村別の利用状況

市町村	電話 相談件数	LINE 相談件数	R5 出生数
名古屋市	268	117	15,701
豊橋市	39	5	2,124
岡崎市	65	25	2,502
一宮市	44	13	2,130
瀬戸市	8	6	643
半田市	13	3	692
春日井市	17	15	2,085
豊川市	39	9	1,204
津島市	3	2	264
碧南市	6	2	454
刈谷市	22	8	1,312
豊田市	9	12	2,536
安城市	32	32	1,325
西尾市	17	4	967
蒲郡市	4	0	431
犬山市	3	0	344
常滑市	10	33	341
江南市	7	9	528
小牧市	15	3	798
稲沢市	19	9	767
新城市	3	4	127
東海市	11	41	873
大府市	15	10	760
知多市	6	6	462
知立市	9	6	574
尾張旭市	5	2	526
高浜市	6	3	306
岩倉市	1	3	341
豊明市	6	8	449

市町村	電話 相談件数	LINE 相談件数	R5 出生数
日進市	11	15	829
田原市	4	1	283
愛西市	3	3	280
清須市	12	0	599
北名古屋市	10	6	640
弥富市	3	0	253
みよし市	5	1	471
あま市	2	0	556
長久手市	4	1	511
東郷町	4	0	258
豊山町	0	1	103
大口町	1	2	159
扶桑町	3	2	217
大治町	0	0	251
蟹江町	45	2	262
飛島村	0	0	20
阿久比町	3	1	164
東浦町	11	4	264
南知多町	0	1	38
美浜町	1	1	77
武豊町	5	2	281
幸田町	2	0	299
設楽町	0	0	11
東栄町	0	0	9
豊根村	0	0	1
不明	235	0	
県外	2	9	
総計	1,068	442	

表2 曜日別状況

曜日	電話相談		LINE相談	
火曜日	312	29.2%	152	34.4%
水曜日	347	32.5%	128	29.0%
木曜日	409	38.3%	162	36.7%
総計	1,068	100.0%	442	100.0%

表3 相談所要時間

相談時間	電話相談		LINE相談	
10分未満	418	39.1%	6	1.4%
10分～30分	516	48.3%	112	25.3%
31～60分	127	11.9%	186	42.1%
60分以上	7	0.7%	138	31.2%
総計	1,068	100.0%	442	100.0%

表4 年度別紹介経路

(1) 電話相談

経路	利用経験あり	市町村 (保健福祉)	母子健康 手帳	医療機関	保健所	友人・ 知人	ホーム ページ	子育て 支援 センター	院内	幼稚園・ 保育園等	学校	児童相談 センター	その他	不明	総計
R2年度	598	133	118	11	8	5	132	1	1	1	1	0	7	100	1,116
	53.6%	11.9%	10.6%	1.0%	0.7%	0.4%	11.8%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.0%	0.6%	9.0%	100.0%
R3年度	721	148	133	22	12	3	173	4	2	0	1	0	13	116	1,348
	53.5%	11.0%	9.9%	1.6%	0.9%	0.2%	12.8%	0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.0%	8.6%	100.0%
R4年度	757	136	139	22	3	3	166	4	2	0	0	1	5	125	1,363
	55.5%	11.5%	11.8%	1.9%	0.3%	0.3%	14.0%	0.3%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	10.6%	100.0%
R5年度	625	107	105	22	3	6	158	1	4	1	0	0	8	142	1,182
	52.9%	9.1%	8.9%	1.9%	0.3%	0.5%	13.4%	0.1%	0.3%	0.1%	0.0%	0.0%	0.7%	12.0%	100.0%
R6年度	630	98	71	17	3	6	120	1	2	0	0	1	8	111	1,068
	59.0%	9.2%	6.6%	1.6%	0.3%	0.6%	11.2%	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	0.1%	0.7%	10.4%	100.0%

(2) LINE相談

経路	利用経験あり	市町村	医療機関	知人・ 友人	ホーム ページ	その他	不明	総計
R5年度	100	73	34	1	50	12	0	270
	37.0%	27.0%	12.6%	0.4%	18.5%	4.4%	0.0%	100.0%
R6年度	210	139	21	7	45	20	0	442
	47.5%	31.4%	4.8%	1.6%	10.2%	4.5%	0.0%	100.0%

表5 相談者続柄

続柄	電話相談		LINE相談	
母	882	82.6%	428	96.8%
父	23	2.2%	7	1.6%
本人	155	14.5%	7	1.6%
配偶者	1	0.1%	0	0.0%
祖父母等	5	0.5%	0	0.0%
きょうだい	0	0.0%	0	0.0%
不明	2	0.2%	0	0.0%
総計	1,068	100.0%	442	100.0%

表6 相談者年齢

年代	電話相談		LINE相談	
10歳代	1	0.1%	0	0.0%
20歳代	88	8.2%	82	18.6%
30歳代	462	43.3%	325	73.5%
40歳代	186	17.4%	35	7.9%
50歳代	9	0.8%	0	0.0%
60歳代	5	0.5%	0	0.0%
70歳代	0	0.0%	0	0.0%
不明	317	29.7%	0	0.0%
総計	1,068	100.0%	442	100.0%

表7 相談対象者

対象者	電話相談		LINE相談	
こども	905	84.7%	433	98.0%
本人	157	14.7%	7	1.6%
孫・甥・姪等	5	0.5%	0	0.0%
配偶者	1	0.1%	2	0.5%
きょうだい	0	0.0%	0	0.0%
患者等	0	0.0%	0	0.0%
その他	0	0.0%	0	0.0%
不明	0	0.0%	0	0.0%
総計	1,068	100.0%	442	100.0%

表9 0歳児(乳児)の月齢内訳

月齢	電話相談		LINE相談	
0ヶ月	26	10.5%	26	9.8%
1ヶ月	27	10.9%	33	12.4%
2ヶ月	32	13.0%	33	12.4%
3ヶ月	26	10.5%	34	12.8%
4ヶ月	14	5.7%	27	10.2%
5ヶ月	19	7.7%	25	9.4%
6ヶ月	25	10.1%	33	12.4%
7ヶ月	19	7.7%	12	4.5%
8ヶ月	20	8.1%	15	5.6%
9ヶ月	15	6.1%	11	4.1%
10ヶ月	18	7.3%	11	4.1%
11ヶ月	6	2.4%	6	2.3%
乳児 合計	247	100.0%	266	100.0%

表10 相談内容分類

相談内容	電話相談		LINE相談	
育児相談	788	73.8%	390	88.2%
事故相談	97	9.1%	30	6.8%
アレルギー	0	0.0%	2	0.5%
家族の体と心	7	0.7%	5	1.1%
虐待・虐待予防	4	0.4%	2	0.5%
思春期相談	21	2.0%	0	0.0%
母性相談	5	0.5%	2	0.5%
予防接種	7	0.7%	9	2.0%
その他	139	13.0%	2	0.5%
総計	1,068	100.0%	442	100.0%

表8 相談対象者(子ども)の年齢

年齢	電話相談		LINE相談	
0歳	247	27.1%	266	61.4%
1歳	98	10.8%	69	15.9%
2歳	86	9.5%	23	5.3%
3歳	93	10.2%	14	3.2%
4歳	94	10.3%	36	8.3%
5歳	35	3.8%	11	2.5%
6歳	60	6.6%	3	0.7%
7歳	27	3.0%	2	0.5%
8歳	18	2.0%	0	0.0%
9歳	10	1.1%	2	0.5%
10歳	34	3.7%	0	0.0%
11歳	20	2.2%	0	0.0%
12歳	8	0.9%	2	0.5%
13歳	12	1.3%	1	0.2%
14歳	3	0.3%	1	0.2%
15歳	16	1.8%	0	0.0%
16歳	5	0.5%	0	0.0%
17歳	4	0.4%	0	0.0%
18歳	2	0.2%	0	0.0%
不明	38	4.2%	3	0.7%
総計	910	100.0%	433	100.0%

表11 育児相談内容分類

相談内容	電話相談		LINE相談	
こどもの病気と手当て	293	37.2%	144	36.9%
家族・人間関係	188	23.9%	71	18.2%
日常生活	89	11.3%	45	11.5%
教育	68	8.6%	5	1.3%
発育・発達	29	3.7%	25	6.4%
授乳	38	4.8%	58	14.9%
食事に関すること	23	2.9%	23	5.9%
性格・行動・社会性	53	6.7%	19	4.9%
社会資源	1	0.1%	0	0.0%
その他	6	0.8%	0	0.0%
総計	788	100.0%	390	100.0%

令和6年度 時間外電話・LINE 相談「育児もしもしキャッチ、
育児つながる LINE」相談情報分析結果報告

編集 あいち小児保健医療総合センター
保健センター保健室
〒474-8710 大府市森岡町七丁目 426 番地
TEL 0562-43-0500 内線 4041

発行 令和7年8月